

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	生合成マシナリー：生物活性物質構造多様性創出システムの解明と制御
<b>領域代表者</b>	及川 英秋（北海道大学・大学院理学研究院・教授）
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	<p>本研究領域は、標的化合物の構造情報およびバイオインフォマティクスを用いた生合成遺伝子の解読により、論理的に反応経路や個々の反応の出発物質を推定する方法を開発し、それらを基に生合成マシナリーを再構築することで有用物質の生産を目指すものである。各計画研究ごとの役割も適切であり、それぞれの分野で力量のある研究者が英知を結集することで、多様性創出機構の解明に向けて研究成果が期待できる組織構成となっている。また、領域代表者のリーダーシップ及びマネジメントについても十分な実績がある。本研究領域は、従来の有機合成とは全く異なり、生合成酵素を用いた多様な有用物生産システム開発を行う融合研究として、画期的な研究成果を上げることが期待される。</p>